

令和6年11月12日

大垣市長 石田 仁 様

大垣市指定管理予定候補者選定・評価委員会
委員長 藤井 えりの

令和5年度指定管理業務の総合評価について

大垣市指定管理者評価委員会において、令和5年度指定管理業務に対する総合評価を実施したので、次のとおり報告いたします。

なお、総合評価の結果とともに、今後の施設運営に向けての要望事項を意見として付記します。

1 総合評価の結果

令和5年度評価結果一覧表（施設別）のとおりに

2 評価結果に付記する意見

- (1) 評価結果「2 評価結果が低く改善点がある」とした9地区センター、時山文化伝承館、一之瀬ポケットパーク、大垣市かみいしづ緑の村公園、奥養老及びアーチェリー場について

目標指標とする施設利用者数や利用件数等の回復が鈍いことが評点に反映したと見受けられます。

利用者数等の低迷は、社会情勢に起因するものだけでなく、施設の魅力低下や施設の利用が市民ニーズに合致していないことも考えられます。今回、評価結果が低かった施設に限らず、施設に対する市民のニーズを再確認するとともに潜在化しているニーズの発掘など、利用を促す策等のほか市民にとって必要な施設であるのかを含めて、検討されるよう求めます。

- (2) 自立性の高い運営に向けた取組について

施設の収益性を高める取組として、指定管理者が積極的に自主事業を行う取組が見られ、評価できます。今後も、市は指定管理者に対して、さらなる自主事業を展開するよう促すなど、引き続き収益性を高める努力について指導するよう求めます。

(3) 施設所管課と指定管理者との連携について

市は施設管理者として、施設運営を指定管理者に任せきりにするのではなく、事業計画や予算の執行状況、目標の達成状況などを継続的に点検・分析するなど、積極的に指定管理者と関わることで、市の目指す施設の方向性を指定管理者と共有し、適切な施設運営に努めることを望みます。

(4) 総評

令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症は、季節性インフルエンザと同じ5類感染症に位置付けられました。指定管理施設においても、令和4年度よりも施設利用者数や利用件数等が増加し、コロナ禍前の水準への回復が感じられます。

一方で、多くの施設では、アフターコロナの行動変容を踏まえたサービスの提供といった先見的な取組が弱いように感じます。

そこで、指定管理者と施設所管課とで、利用者の声を踏まえて利用状況を分析し、ニーズに合った施設の運営に努めるとともに、課題を共有しながら、利用者増に努めるなど様々な課題等の解決・解消に向けた取組を求めます。